

愛知県花き振興計画2030の概要

花って、いいよね。



「花の王国あいちのパワーアップ」
花き産業の維持・発展と花のある暮らしの定着をめざして

＜本県花きを巡る状況＞

○花き産出額は531億円（2024）
花きは1962年から産出額で連続日本一の「花の王国あいち」

年	2020	2021	2022	2023	2024
花き産出額(億円)	497	542	573	563	531

<出典：生産農業所得統計>

- 花きの栽培面積は1,909ha（2024）<出典：作物統計調査>
- 生産農家数は2,351戸（2023）、年々減少の傾向 <出典：花き生産実績>
- 夏季高温による生産の不安定化や燃料、資材費の高騰が生産者の経営を圧迫
- 切り花、鉢物とも多種多様な品目が生産され、施設栽培による安定的・計画的な栽培により市場で高評価
- 試験研究と生産者が連携を図り、品質・生産性向上のための新技術の開発及び、耐暑性など生産者ニーズにマッチした品種開発を展開
- 卸売市場を中心に本県産花きが輸出されており、品質の高さは国際的に高評価

<出典：愛知県調べ>

年	2020	2021	2022	2023	2024
輸出金額(千万円)	1.5	2.6	3.0	3.7	3.3

○主要産地では、輸出に適した品目の生産や病害防除等、輸出に向けた体制強化の取組を開始

生産
・
技術
・
流通
・
輸出

文化

- 「花の王国あいち」のPRや花のある生活空間の提案など、あいちの花を暮らしの中に取り入れる「花いっぱい県民運動」を展開
- 自治体や生産者等が主体となり、県内各地で花育教室を実施（参加者数7,684名（2024））<園芸農産課聞き取り>
- 華道部（茶華道部）やフラワーアレンジメント部を設置している高校は136校 <園芸農産課聞き取り>

需要

- 新型コロナウイルス感染症拡大後は、葬儀の簡略化等により業務需要が減少
- 少子高齢化や物価高騰による生活防衛反応により1世帯あたりの年間購入額は低迷
- 年代別では20代から50代の購入額が低い

＜課題＞

- 担い手の減少、コストの高騰、気候変動による生産の縮小に対応した生産・供給体制の確保
- 国内需要の縮小対策として、新たな需要を創出
- 国際的に評価の高い県産花きの輸出促進

＜主な施策の方向＞

花き産業の振興 ～花の王国あいちを支える～

＜生産者の経営の安定＞

- 新規就農や営農継続支援による多様な担い手の確保
- 省エネ設備やスマート農業技術導入等の生産基盤整備

＜気候変動への対応と環境負荷軽減の推進＞

- 耐暑性や低温開花性品種の開発と普及推進
- 高温障害を回避・軽減する技術や農薬に頼らない病害虫防除技術の開発と導入推進
- 自然災害に備えたりリスク管理支援

＜あいちの花の競争力強化＞

- 高収益・省力等の生産技術開発と導入推進
- 魅力ある新品种の開発と普及推進
- 出荷規格の見直し等による流通体制の強化支援

＜輸出の促進＞

- 輸出に適した品目生産など輸出対応産地の育成
- 国際園芸博覧会への出展・コンテストへの参加支援



スプレーギク品種検討会



グロリオサ輸出産地

花きの文化の振興 ～花の王国あいちを定着させる～

暮らしに花を取り入れる花いっぱい県民運動の展開

＜公共施設及びまちづくり等における花きの活用＞

- 「花の王国あいち」シンボルマークの活用と定着
- 県内大規模イベントでの花きによるおもてなしとPR

＜花きを活用した教育、地域の花き活用の推進＞

- 20代から50代に向けた花育教室の開催

＜日常生活における花きの活用促進＞

- 華道など花に関する高校部活動への支援
- フラワーバレンタイン等新たな花贈り文化の定着支援



高校華道部

花きの需要拡大 ～花の王国あいちを広げる～

＜花きのブランディングの推進＞

- 県民参加型の花と緑のイベントの継続的開催
- 国際園芸博や県内大型イベントを活用した需要の喚起

＜需要変化への対応と消費者の理解醸成＞

- SNSを活用した県産花きPRの取組支援
- ホームユース需要に対応した生産・流通の連携強化



あいち花マルシェ

「花の王国あいち」の目標 <目標年度2030年度（令和12年度）>

○花き産出額 580億円 ○花き輸出金額 8千万円